

## 留学だより vol. 10

こんにちは。カナダから帰国して1か月ほどたち、東京でこの留学だよりを書いていきます。私の留学だよりも今回が最終号になるので、今月は帰国までの出来事と留学の振り返りを書いていきます。最後まで楽しんで読んでいただけたら幸いです。

### 0. 先月号の補足

先月号に載せた玄関マットの写真を見て、これはどういう意味なのかという質問を何人かの方から頂きました。口語の表現であり正確な翻訳が難しいのですがニュアンス的には「また（うちに来たのは）あなたか、2度と来るな!」という意味です。質問してくださった方、ありがとうございました。

### 1. 町を出るまで

学校の期末試験やプレゼンテーションが終わってから私がコミュニティを出るまでに一週間程度の期間があったので、荷物を整理しつつ仲良くしてもらっていた友人やホストファミリーの友人たちと遊んだり食事をしたりする時間を十分にとることが出来ました。特に、私の誕生日には仲の良かった友人数人が集まってくれて、プレゼントを開けたり、ゲームをしたりなど楽しく過ごしました。特別感のある誕生日を過ごしたのはしばらくぶりだったのでとても嬉しかったです。友達からはアクセサリーや本、帽子などを貰い、ホストファミリーからは服とパッチワークを貰いました。パッチワークは裁縫が上手なホストマザーの手作りで裏には私の友人からのメッセージが書いてある布が縫い付けてありました。友人たちが私にメッセージを書いていたのを知らなかったのでも驚きましたが嬉しかったです。



町で過ごす最後の日に一番仲の良かった友人たちに会いに行きました。私もそうだったのですが、彼女たちは私が日本に帰ることの実感が湧かなかったようで（帰国後の今も湧かないようですが）、お別れの時の直前まで普通に過ごしていたのですが別れ際はやはりお互いに悲しくなっていました。ホストファミリーとも最後の一週間は一緒に出かけたり沢山話をしたりして過ごし、出来るだけ感謝の気持ちを言葉にして伝えてお別れをしました。

## 2. 次世代の研修へ

私の暮らした町を出た日、帰国研修を受けるために研修場所のブリティッシュコロンビア大学（UBC）のあるバンクーバーまで移動しました。私がかねてから UBC に強い憧れがあり、訪れてみたいと思っていたのでとても楽しみにしていました。私のいた町は私を含め 4 人しか次世代の研修生がいなかったのと、他の地域の研修生よりも移動時間が数時間短かったのもあり、現地のカナダ人のコーディネーターと道中でお店に立ち寄ったりご飯を食べたりしながら比較的ゆっくり移動しました。UBC では寮に宿泊しながら、研修を受けました。実際に UBC の生徒と交流する機会もありとても良い刺激を受けました。彼らにキャンパスツアーにも連れて行ってもらったのですが、キャンパス内にゴルフ場や病院、レストランやスーパーなどがあり学校というよりも一つの街と言う方が適切な気がします。また、図書館もとても大きいものがキャンパス内に 10 個以上あり、全てがとてもきれいでした。UBC はカナダでも有名な大学なので学生は朝から夜まで授業で忙しくしているそうなのですが、平日でも 5 時間は勉強すると言っていたのが印象的で、自分も頑張ろうと思いました。



滞在中は自由時間もあり、グッズなどが売っているショップに行きました。念願の大学のパーカーをゲットできました。



### 3. 日本へ帰国

行きと同じバンクーバー国際空港から成田空港に向けて出発しました。私はスーツケースが多かったのでクレジットカードで超過料金を払う必要があったのですが、なぜか私のクレジットカードが予備も含めてエラーで動かないというトラブルが起きました。今までそんなことはなかったので荷物を捨てることを覚悟しかけましたが読み取りの機械を変えたら解決しました。安心したのも束の間、出発直前に私たちが乗った便でオーバーブッキングが発生していることが判明し、飛行機が飛ばないのではないかとこの疑惑があったのですが誰かが次の便に乗ることになったのでしょう。無事に特に大きな

遅延もなく飛び立ちました。機内食では行きと同じでそばが提供されて、久しぶりのめんつゆのおいしさに感動しました。

日本が近づくまで順調に飛んでいたのですが、フライトの最後の 20 分辺りで気流が悪くなってしまい、上下左右に機体が大きく揺れていました。近くにいた別団体を担当していた旅行会社の方が本当に焦っていたので私も焦りました。留学の最後の最後でこのような危険に見舞われるとは思いませんでした。小さい子は泣いてしまっていたり、日本への観光客はそれぞれの宗教で祈り始めていたり私の席の周りは割とカオスだったのですが無事に着陸出来てよかったです。着陸後は自然と拍手と歓声が起きました。荷物も無くなることなく無事に家族と合流し、自宅に戻りました。

#### 4. 留学を終えて

留学を終えて、2 週間ほど経った今この留学だよりを書いている訳ですが、カナダにいたときに既に遠い昔の出来事のような不思議な気持ちです。留学だよりには意識して楽しい話題を載せてきたつもりですが、日本の家族や友達と離れて過ごす 10 ヶ月は楽しいことだけではなく想像以上に悔しかったことや苦しかったこと、悩んだこともたくさんありました。他の家族と共に生活すること、完全にアウェイな場所で人間関係を最初から築くこと、その人間関係を維持することなど、言い出せばきりがないほどです。また、留学中は日本の家族や友達、コーディネーターの方など、味方でいてくれる人は沢山いるとしても（実際沢山いますが）、最終的に目の前の問題を何とかするのは自分自身です。しかし今となってはそれもすべて私にとって良い経験になったと心の底から言うことが出来ます。もちろん部活動や行事週間など留学したことで機会を逃してしまった日本ではできないこともあると思いますが、私は高校生で留学をする選択をして本当に良かったです。また、留学させてもらえる家庭環境や、私が都立学校に通っていたから次世代リーダー育成道場という留学プログラムに参加できたことなど私自身がとても恵まれている環境にいて、全ての人が望んで手に入れられるものではないという事は理解しているつもりです。今は慣れ親しんだカナダの地を離れたことへの寂しさもありますが、思い出と感謝の気持ちを胸に新しい目標に向かって努力を続けていきます。

これで私の留学だよりは最後になります。今は無事に 10 号を書ききることが出来て安心しています。私の拙い文章を毎号読んでくださり、ありがとうございました。私の留学だよりが海外生活を知るきっかけになれば幸いです。最後になりますが、日本からずっと応援してくれた家族、友人、海外で共に頑張ってきた次世代の仲間、そしてサポートしてくださった皆様に心から感謝申し上げます。